

やがて川幅もだんだんせばまって、木や土砂が沢筋へなだれ込んで障害になり、歩きずらくなってくる。ここを過ぎると雪渓が目立ってきた。

やや行くと、また二俣となる。右は雪渓で埋っており、左は2m程の小滝が3つ連なっている。左へルートをとる。1段目は簡単に越える。しかし、2段、3段目は岩がポロポロで直登を断念。左側のブッシュへ逃げて、木の根や笹などをつたって上へ出る。

この先は雪渓となる。傾斜があるので、滑ったら一気に落ちてしまいそうなので、慎重にキックしながらよつんばいになって登る。せっかく軍手を持って行ったのに、コロッと忘れてしまい、手は冷たいわ、つま先は痛いわで、又々減点。

やがて上方に林道のガードレールが見えてくる。そしてようやく雪渓を乗り越えてガラガラ岩場に出た。直登すればすぐなのだが、安全策をとって回避することにして、左側のブッシュに入る。少し進んだら、ガレ場だが傾斜のゆるい所に出たので、浮石に注意しながら登り、林道に出る。

まずは万歳。小休止してから甲子山に向かい、南沢に入ったパーティと合流して甲子温泉に下山する。

(記・

[タイム] 甲子温泉(6:15)→左俣出合(7:45)→林道(12:00)

5. 那須・旭沢(仮称)左俣、 旭直沢(仮称)、ニゴリ沢左俣

1984年6月29日～7月1日

L

6月30日 観音沼(5:00)→旭沢出合(5:15, 6:15)→二俣(6:20)→左沢出合(8:35)
→遊行終了(9:35)→旭直沢下降開始(9:45)→旭沢右俣出合(13:20)→左俣出合(13:35)→幕営地(13:50)

前夜、観音沼のほとりで寝ち合い、テントを張って寝た。朝起きて直ちに車に乗り、旭沢(仮称)出合まで入って、朝食の後出発。

めざす旭沢(仮称)は、出だしから砂防ダムの連続であった。大峠へ向かう林道が沢を横切る地点がら二俣まで約10個、切目なしに続いている感じである。最初は右岸のブッシュの中を越えていたが、そのうち左岸に林道がのびているのをみつけ、沢筋を見ながら一気に足をのぼす。林道は二俣を経て、右俣に少し入った所までの

びていた。

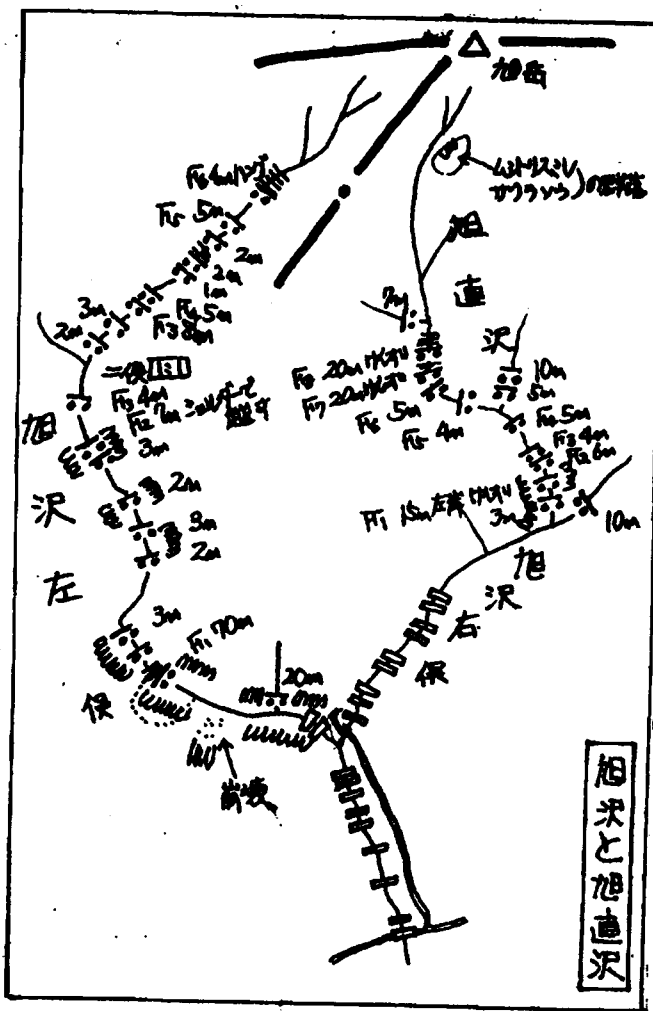
二俣から眺めると、右俣は砂防ダムが続いて明るい川原である。一方、左俣は兩岸が切り立ち、中の様子はうかがえないながらも圧倒的な規模のゴルジュとなっている。急激に高度を上げている様子からして滝もかかっているようだ。それに左岸の側壁には白いすだれをかけたように支沢が滝をかけている。我々が先にこちらをねらう魅力に溢れていた。

砂防ダム2つを越えて左俣に入る。とたんに沢床は岩石が積み重なり、ちょっとしたガレ場ようになった。左右の壁はモロく、自然崩壊が進み、落石が絶えないようである。そして水も濁れる。

ちょっとあてがはずれたかなと思っていたら、目の前に大きな滝が立ちはだかった。70m程の落差があろう。岩質からいってとても登れるものではなく、大きく高掛くより仕方がない。左岸はボロボロの岩場が続いているので、右岸から捲くよりこれまた仕方がなさそうである。

滝のやや下流までもどって右岸の草付きまじりの岩場を5m程登り、樹林帯に入ってヤレ安心。あとはとにかく滝の方をめざして進むだけだと思ったが、少し考えが甘かったようである。樹林帯に入ってから途中何度かボロボロの小さな岩場に行く手を阻まれ、その度にまた大きく迂回するという具合となり、結局この滝の捲きだけで40分もかかってしまった。

この先はまた平凡となる。濁れた沢を1時間近く歩いたあたりから再び水の流れが出てきて、すぐ2段滝がかかる。下段はどうということもないが、上段の7m滝



は最上部がハングとなっている。ショルダーで佐藤君を押し上げ、あとはザイルをたらし引っ張り上げる。このあとまもなく二俣となり、右沢に入る。

右沢はかなり細い流れとなったが、小滝が次々出てきた。そのほとんどは直登でき、退屈しないで登れた。やがて4mのハング滝。左岸を捲いて越す。もう沢は細い流れとなり、ヤブもかかってきて漂流の装いである。1655mピークより上部に来ていることを確認してから右手に藪をこいで、旭直沢(仮称)をめざす。

尾根を越して旭直沢(仮称)に下ろうとしてあたりにギョウジャニンニクが多数生えているのに気づいた。長年山歩きをしているがこんな大群落を見たのは初めてである。ギョウジャニンニクはこの先滝が出てくるまでの旭直沢(仮称)の兩岸に多数見られた。沢の中に落ち込んできているのを中心に、今晚のおかずを採取させてもらった。

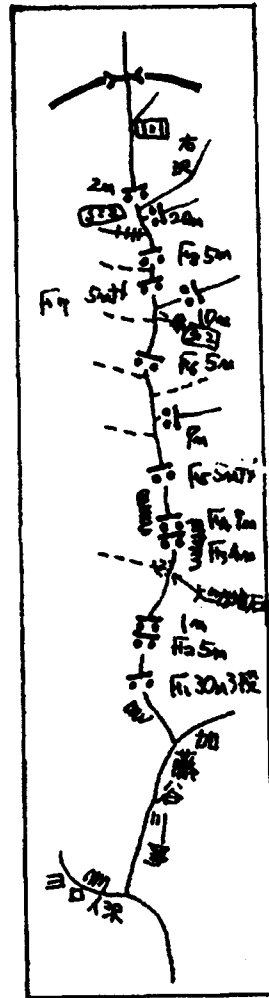
旭直沢(仮称)の源頭は、旭岳から落ち込む急なガレ場状となり、水の流れはなく、浮石が沢を埋めている。源頭部分などいつ落石がきても不思議でない感じである。

20分程下ってようやく水の流れが出てきた。と思うとすぐ大きな滝である。20m程の落差がある。左岸を懸垂で下る。そのすぐ下にもまた20m程の滝。これは左岸ブッシュ帯を少し下ったあと、やはり懸垂で下る。

2つの大きな滝を懸垂で越えてひと息つくまもなく、この先次々と滝がかかる。5mクラスのものばかりで、ほとんどがクライミングダウンでさここが、岩が柔らかいのは参った。どうやらこの沢は、硬い岩と軟らかい岩が交互に重なりあって、その境目が滝となっているようである。

旭沢(仮称)右俣出合も間近となった所に最後の華をかざるようにして再び大きな滝が出てくる。ここは完全な空中懸垂で下るよりなかった。

旭沢(仮称)右俣出合からは平凡となり、今朝方遡行していった左俣との出合まで下って沢より上がる。



ニゴリ沢 7月1日 幕营地(6:00)→加藤谷川・ヨロイ沢出合(6:15)→ニゴリ沢出合(6:30)
たけ